

4 - 7 植物

平成7年度に実施した河川水辺の国勢調査の結果、120科691種の植物が現地を確認されました。この内、シダ植物が47種、裸子植物が5種、離弁花類が296種、合弁花が161種、単子葉植物が182種確認されました。

水辺にはヨシ、オギ、ツルヨシ、アカメヤナギ、エノキ、ムクノキが、湿性地では、ツククサ、セリ、アメリカセンダングサ、エノキグサが、高水敷及び乾燥地では、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、ヒナタイノコズチ、シマスズメノヒエ、ギシギシ、イタドリ、メドハギが挙げられます。このほか、高水敷から堤防法面の林縁部、耕作放棄地、造成跡地等でヤブガラシ、カナムグラ、アレチウリ、ノイバラ、ガガイモ、ノブドウ、スイカズラ、クサイチゴなどのツル性植物が高頻度で確認されました。また、水生植物としては、エビモ、ササバモ等の沈水植物、ホテイアオイ、ヒシ等の浮葉植物が分布しています。

あまり水が浸からないところには、人工的に水防林として整備されたハチク林が連続して残っています。

注目すべきものとしては、吉野川河口付近の砂州にみられるケカモノハシ、コウボウムギ、ハマヒルガオ等が混生することで特徴づけられる海浜植物群落、吉野川河口域付近における汽水性干潟の典型的な植生の1つと評価できるヨシ群落およびアイアシ群落があります。

